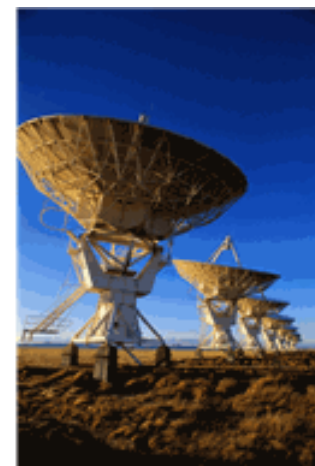


# 「Web2.0時代」のプロセス改善

～ ボトムアップ型のプロセス改善に向けての取り組み～

三菱スペース・ソフトウェア株式会社  
鎌倉事業部  
木村 良一  
(kimura@kbo.mss.co.jp)



## ■ 【会社名】

- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社

## ■ 【事業部】

- 東京事業部、つくば事業部、鎌倉事業部、関西事業部

## ■ 【社員数】

- 929名(2007年 3月現在)

## ■ 【事業内容】

- 宇宙システム、防衛システム、バイオインフォマティクス、防災システム、情報セキュリティ、行政情報システム、企業情報システム、医療支援システム、公共インフラストラクチャー、インターネット・通信など情報科学を応用する各種先端分野のシステムの研究開発、設計、製造、販売及びこれらに関連する各種サービスの提供



- 背景
- 「Web2.0時代」とは
- 新しいプロセス改善のアプローチ



ますます厳しくなっていくソフトウェア開発

大規模化

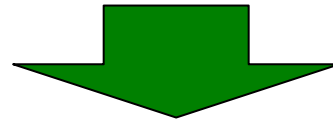
複雑化

短納期化

高品質化

低価格化

高齢化



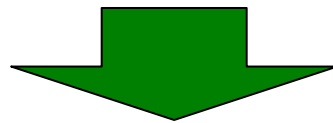
さまざまなプロジェクトの経験を通して...

きちんとしたソフトウェアの開発プロセスに従うことが  
プロジェクト成功への近道

# 今までのプロセス改善

## 経営層・スタッフ部門主導によるトップダウン型アプローチ

- ・ 情報システム開発プロジェクト向け標準プロセスの構築
- ・ ISO9001、CMMIなどの認証の取得
- ・ さまざまな標準化施策



改善活動を行ったものの...

現場技術部門の改善のために導入した施策にもかかわらず、現場担当者の理解を得られないケースが発生

施策自体が技術部門に定着せず、形骸化・儀式化の傾向

## 現場技術部門の声

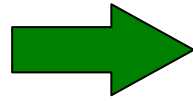
- よけいな作業が増えてしまう
- 標準プロセスが抽象過ぎて、使いにくい
- 認証を取得/維持することが目的になってはいないか
- 本当に改善されているのか実感がわからない
- 今までうまくいってきたので新しいリスクをとりたくない



## 経営層・スタッフ部門と現場技術部門との意識ギャップ

### 経営層の気づき

従来のトップダウン型アプローチでは、このギャップは埋まらない

 **新しい考え方を導入することが肝要**

# 「Web2.0の時代」

## Web2.0がもたらすもの

情報の発信者/受信者のボーダレス化

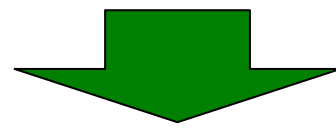
ブログなど

複数の識者による新たな知識や智恵の蓄積/活用

Wikipediaなど

コミュニティの影響が”部門の壁”を壊す

SNSなど



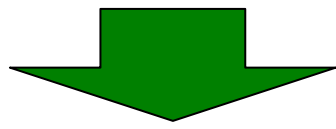
相互コミュニケーションの時代においては、  
現場技術部門の”智恵”も活用することが必要

# 新しいプロセス改善へのアプローチ

**経営層から全社員(450名)に向けての「改革宣言」**

目的:

生産に関わるすべての人間の意識と行動の変革

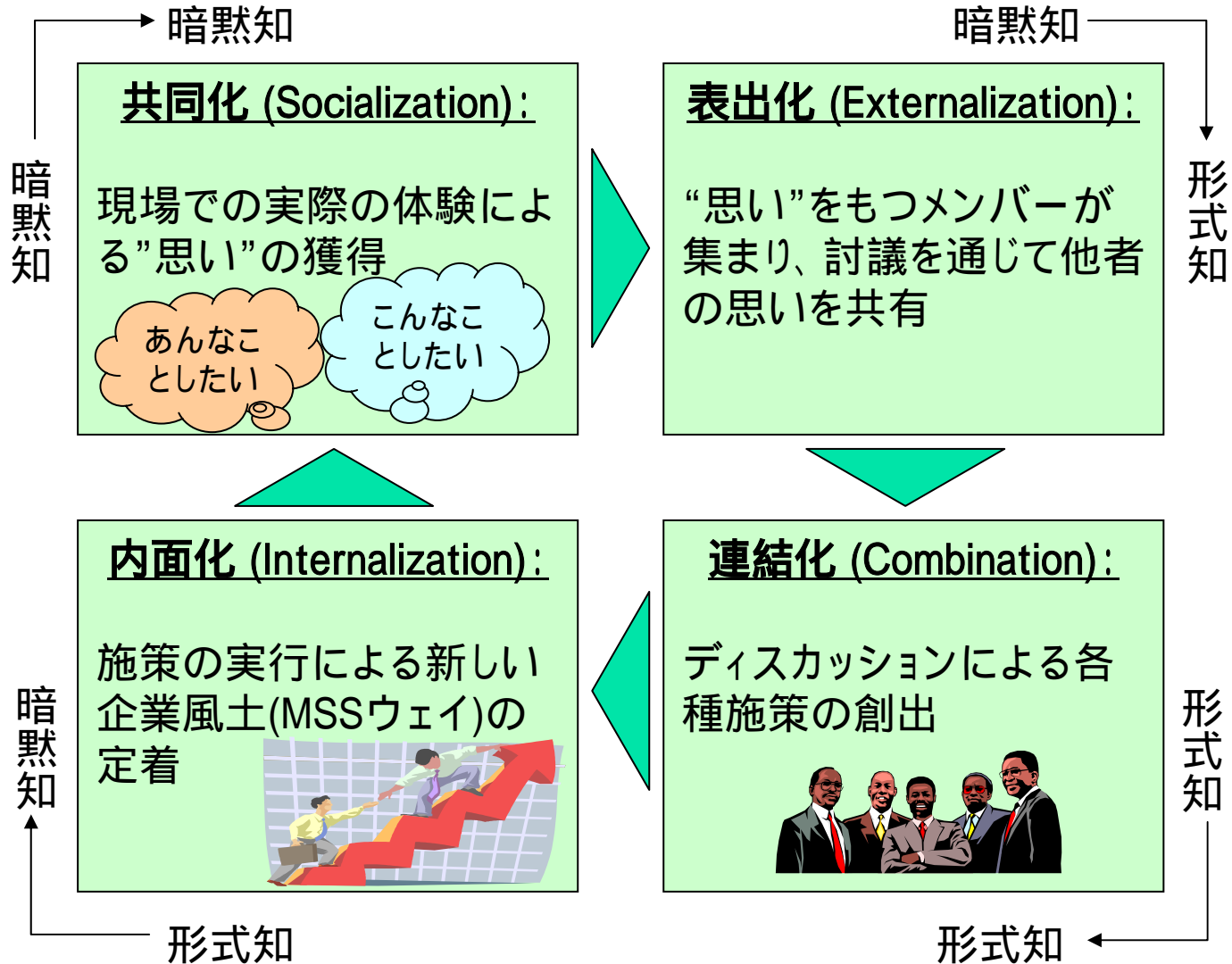


「自らの意識により、自らの職場を、自らが改善・改革する」  
担当者による情報発信/共有を主体とするボトムアップ型アプローチ

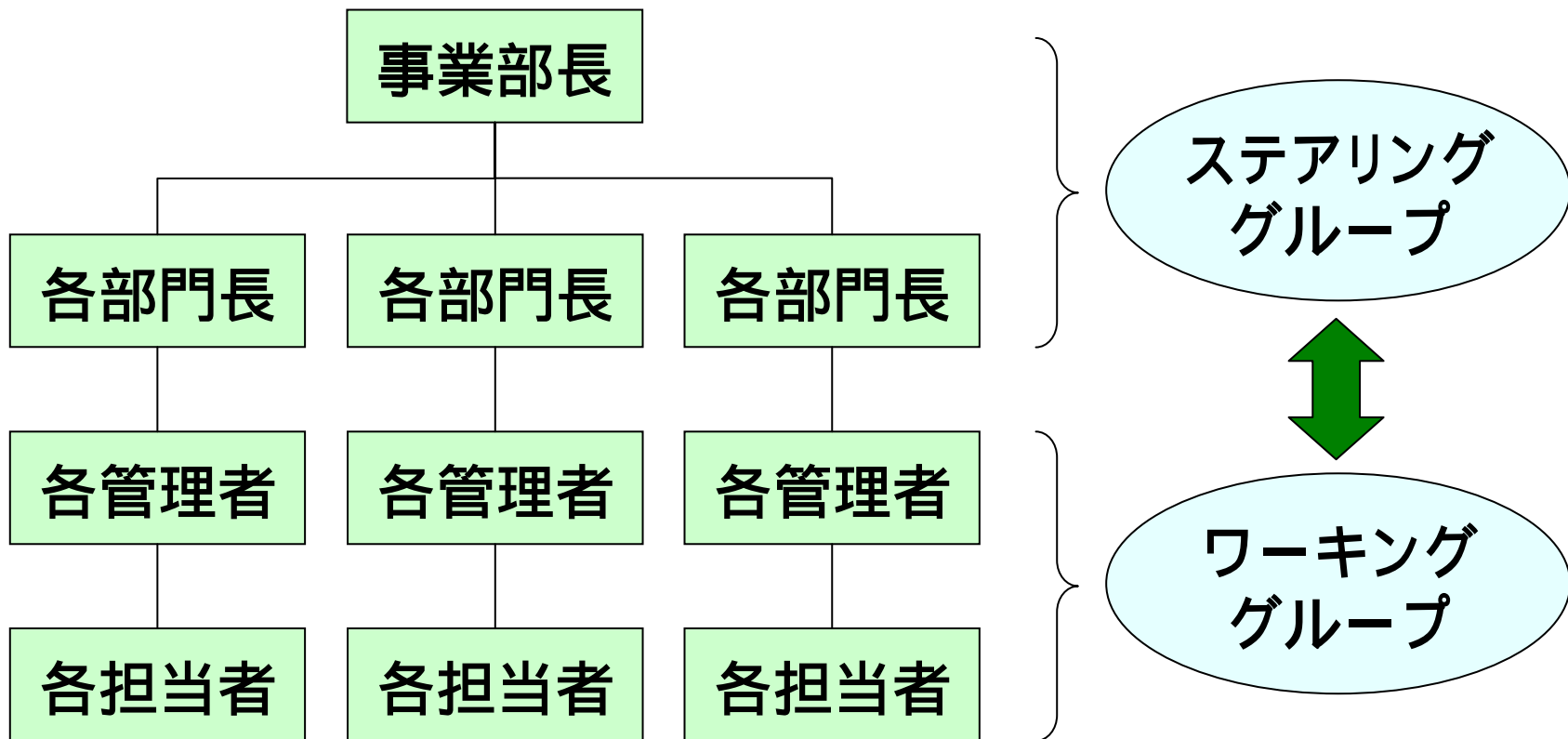


# 新たな改善活動の構想

## SECIモデルに基づくボトムアップ型プロセス改善のモデル



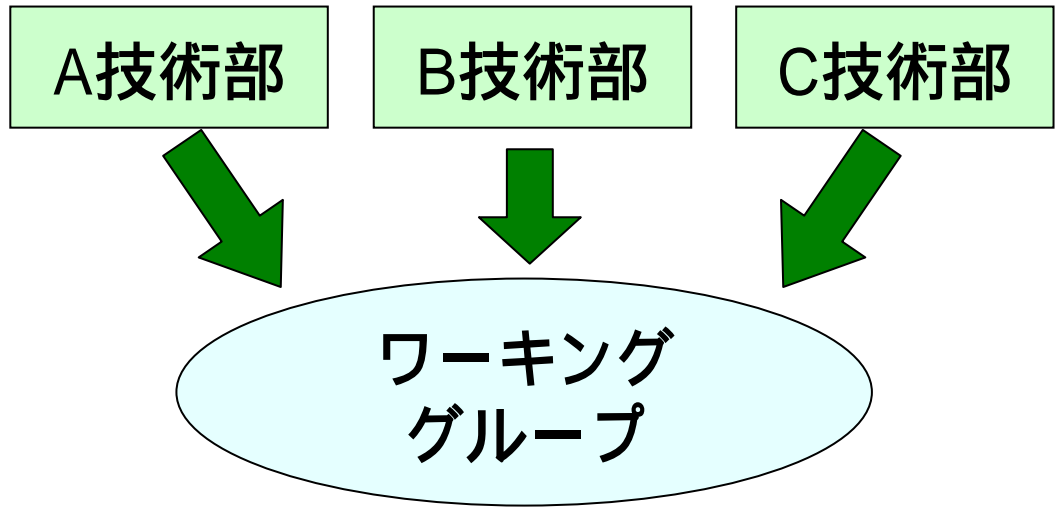
# 全体の推進体制



ステアリンググループとワーキンググループの連携による推進

# ボトムアップ型アプローチの実装

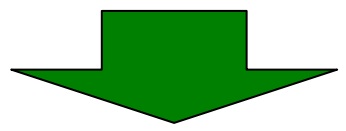
現場技術部門の担当者により、ワーキンググループを構築



SECIモデルに基づき、  
現場での実体験に基づく改善の気づき  
各現場での情報共有  
ディスカッションによる改善施策の洗練  
施策の実行のコアとなる

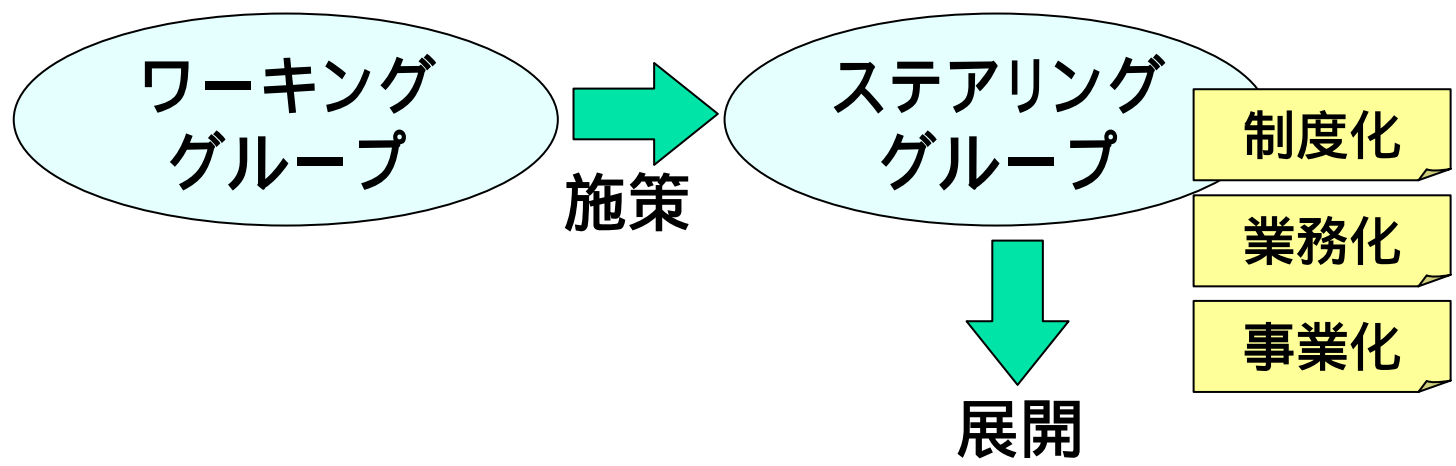
# ステアリンググループの構築

ボトムアップ型アプローチだけでは、単なる「草の根活動」

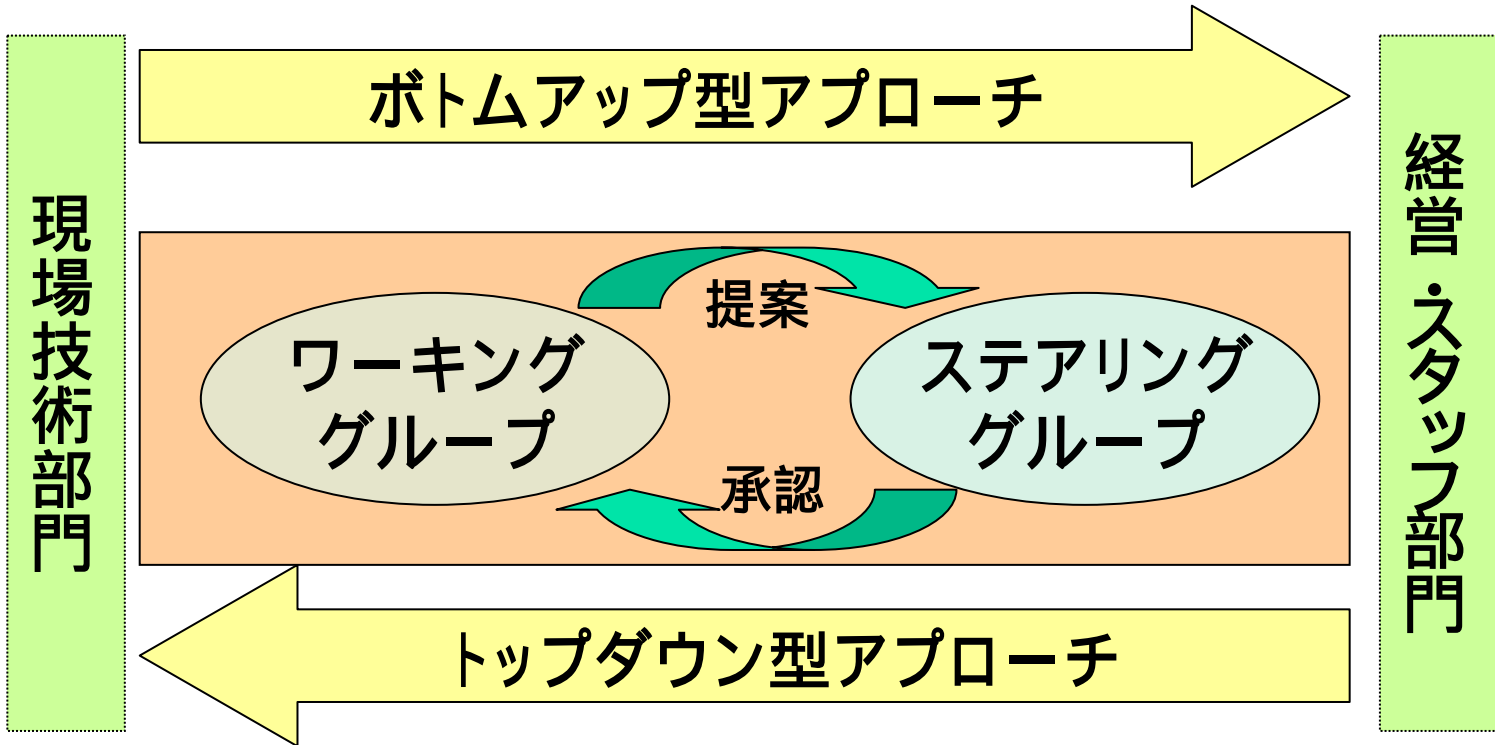


経営層・スタッフ部門によるステアリンググループの構築

## ワーキンググループの施策案の承認 展開

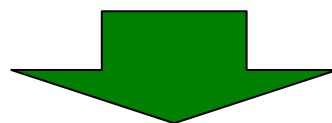


# トップダウンとボトムアップの連携



ワーキンググループとステアリンググループにおけるコラボレーションの”場”がボトムアップとトップダウンの変換スイッチとして機能

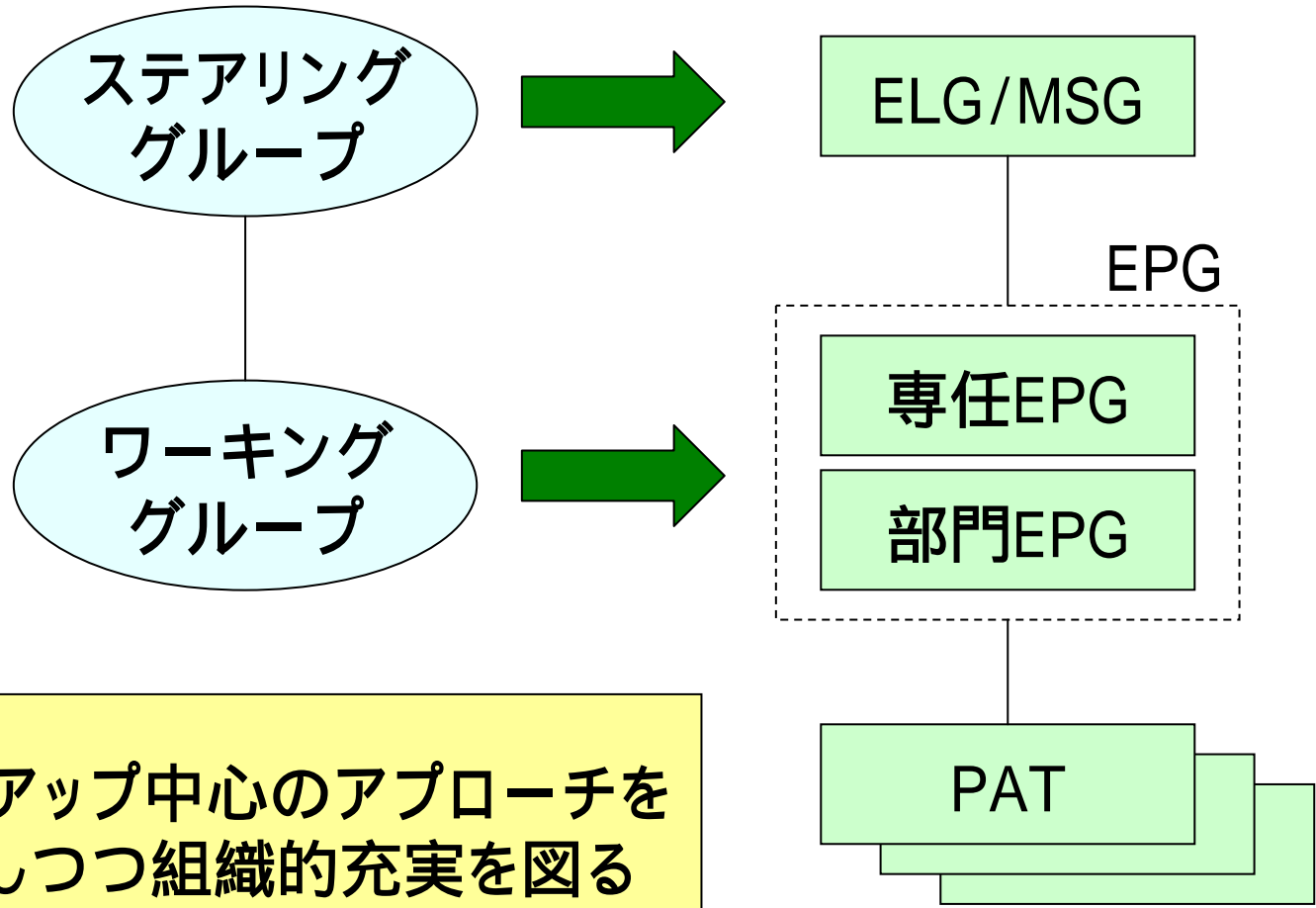
- ステアリンググループとワーキンググループとの「ギャップ」
  - 立場や文化が異なるグループ間の調整において、ギャップがあるのは当たり前！
  - 互いの立場を理解し、相互コミュニケーションを行うことこそ、「Web2.0の時代」のプロセス改善に求められるものである



頻繁に打ち合わせを行うことで、互いの意識的ギャップを埋め、相互理解を深めることができた

*Face to Face*の打ち合わせこそ、  
最大のコミュニケーションツール！

# プロセス改善の組織的拡張に向けて



ボトムアップ中心のアプローチを維持しつつ組織的充実を図る

## プロセス改善を企業風土として定着させるためのポイント

小さな成功の繰り返し

あらゆる媒体を通しての定期的な情報公開

改善の迅速な実現

多様性への対応



ご静聴ありがとうございました